

2024年度 NPO法人清水サッカー協会 事業報告

2024年度当初、長年にわたり理事長を務められた西村氏が退任され、経験値の浅い後任の新理事長の元での船出となり、前途洋々とは例えがたい面もありながら、「新しい風」を組織内に取り込むべく、会員への協力を呼び掛けた一年となった。

協会の中期事業計画案は、現状清水のサッカー界をとりまく様々な問題点の把握から、改善に向けて進めるべき理念・目指す姿・具体的な方策等が詳しく提示されており、毎年定常的に進める必要がある。そうした中での単年度としては、喫緊で特に力を入れるべき課題を絞り込むべきと考え、2024年度は「普及活動」、「競技力向上」、「環境整備」の3点を重点施策として据えさせていただいた。

普及活動としては各種別や団体で創意工夫に富んだ活動が行われた。特に4種「全国少年少女草サッカー大会」は冬季開催として初めての大会を成功裏に終了することができた。

また地域の競技力向上の旗印として、清水エスパルスがJ2初優勝で2年ぶりのJ1復帰を果たしたほか、上記「草サッカー大会」では地元チームの準優勝で成果をもたらした。

「環境整備」では、「静岡市4種チームMAP」を初めて合同で制作したほか、静岡市の「中学部活動廃止」方針を受けて地域クラブ活動検討委員会を発足し、生徒のサッカーをする機会創出について今後の対応を協議して行くものとするなど、活動を進めた。

以下、重点施策への主な成果や課題について報告する。

1、普及活動の推進

- ・女子「JFA なでしこひろばガールズサッカーパーティー」では、質の高い運営内容で多くの参加者を楽しませ、女子普及活動の場として役割を果たした。
- ・静岡協会と共催する「サッカーフェス」は東静岡駅南口広場で開催、良い環境の中で子供たちにサッカーに親しんでもらう機会を創出できた。
- ・「全国少年少女草サッカー大会」は暑熱対策として12月に移行し初の開催、全国各地から120チームが参加し、計278試合を運営し成功裏に終了した。
- ・HPのリニューアルは果たせなかったが、サーバー移行により安定性を確保した。

2、競技力向上について

- ・地域を代表するJクラブ・清水エスパルスは、J2の2024シーズンを通して安定感のある試合運びで、37節で見事優勝を決めJ1復帰を果たした。
- ・エスパルス・ユースはプレミアリーグへの復帰を目指していたがプレーオフで敗れ目標を果たせなかった。一方、「草サッカー大会」プレミアの部ではSALFUSが準優勝、プリンス三保カップで不二見SSSが同じく準優勝し、地元チームとしての意地を見せた。
- ・競技力の向上を狙い、トレセン等の組織を利用して各種別をまたいだ指導者や選手の交流を図りたかったが、有意義な機会を創出することができなかった。

3、環境整備について

- ・「環境整備」では、清水区・葵区・駿河区を網羅した「静岡市4種チームMAP」を初めて合同で制作し、静岡協会との連携をより強化できた。
- ・「草サッカー大会」では高校生レフリー多数が活躍し、審判の「すそ野」を広げることができた。
- ・静岡市の「中学部活動廃止」という方針を受けて、地域クラブ活動検討委員会を発足、中学生がサッカーを続ける機会の創出に向けて今後の対応を協議し活動して行くものとした。
- ・また、組織研究委員会を発足、将来に向けての強い組織づくりに着手した。
- ・一部委員会で、個人情報流出寸前となる事象が発生したことを受け、より一層慎重かつ厳正な取り扱いを励行することとした。